誕生地遺跡発掘調査概要Ⅳ

２００２．３

千早赤阪村教育委員会

誕生地遺跡発掘調査概要Ⅳ

２００２．３

千早赤阪村教育委員会

はしがき

千早赤阪村は大阪府下で唯一の村であります。四季折々に美しい姿を見せる日本棚田100選に選ばれた「下赤阪の棚田」や春夏秋冬登山者で賑わう「金剛山」など、今なお多くの自然が残されています。また、歴史的には南北朝時代に楠木正成が山城を築き幕府軍と戦ったことでも知られています。このように豊かな自然と歴史の残る村の埋蔵文化財包蔵地の１つである楠公誕生地遺跡において今年度発掘調査を行いました。本報告書はこの成果を記したものです。

調査の実施及び遺物整理にあたっては、多くの方々のご理解・ご協力を賜りました。厚く御礼申し上げます。

今後とも本村の文化財行政にご理解・ご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

平成14年３月

千早赤阪村教育委員会

教育長　大　西　清　和

例　　言

1　本書は、平成13年度に行われた楠公誕生地遺跡内における公共事業に伴う埋蔵文化財調査の概要報告書である。

2　調査は、千早赤阪村教育委員会 指導課 和泉大樹を担当者として、平成13年７月９日に着手し、平成13年８月９日をもって終了した。引き続き遺物整理を行い、平成14年３月31日に完了した。

3　本書の執筆・編集は和泉が行った。

4　調査の実施及び本書の作成にあたっては次の方々の参加を得た。(順不同・敬称略)
　岩子苑子・谷口夫抄子・福田夏子・周藤光代・前川篤史

5　現地調査及び遺物整理において下記の機関・方々にご協力頂きました。記して感謝の意を表します。(順不同・敬称略)
　大阪府教育委員会・千早赤阪村立郷土資料館・千早赤阪村教育委員会管理課・西山昌孝

6　挿図の方向は国土座標に基づく座標北を示し、標高はＴ.Ｐで表示した。

7　第２図周辺遺跡分布図の桐山遺跡は現在範囲が拡大しているが、本書では拡大前のものを用いている。

8　出土した瓦器椀については、尾上実　1983　「南河内の瓦器椀」　『藤澤一夫先生古希記念古文化論叢』を参考とした。

目　　次

はしがき
例言
目次
1．はじめに
（1）調査の契機…… 1
（2）調査地周辺の歴史的環境…… 1
2．調査成果の概要
（1）はじめに…… 4
（2）Ｃトレンチの調査成果概要…… 4
（3）Ｄトレンチの調査成果概要…… 10
3．まとめ…… 10

挿図・写真目次

第１図　千早赤阪村位置図…… 1
第２図　周辺遺跡分布図…… 3
第３図　調査トレンチ位置図…… 4
第４図　Ｃトレンチ北端断面図…… 5
第５図　Ｃトレンチ遺構配置図・断面図…… 6
第６図　ＣトレンチＳＫ03平面図・断面図・出土遺物実測図…… 7
第７図　Ｃトレンチ遺物包含層出土遺物実測図…… 8
第８図　Ｄトレンチ遺構配置図・断面図…… 9
第９図　ＤトレンチＳＤ01平面図・断面図・出土遺物実測図…… 11
写真１　平成３・４年度調査区全景…… 5
写真２　ＣトレンチＳＤ01断面…… 5

図　版　目　次

図版１　Ｃトレンチ第１遺構面・第２遺構面・Ｄトレンチ・ＣトレンチＳＫ03遺物出土状況
図版２　Ｃトレンチ遺物包含層出土遺物

1．はじめに

（1）調査の契機

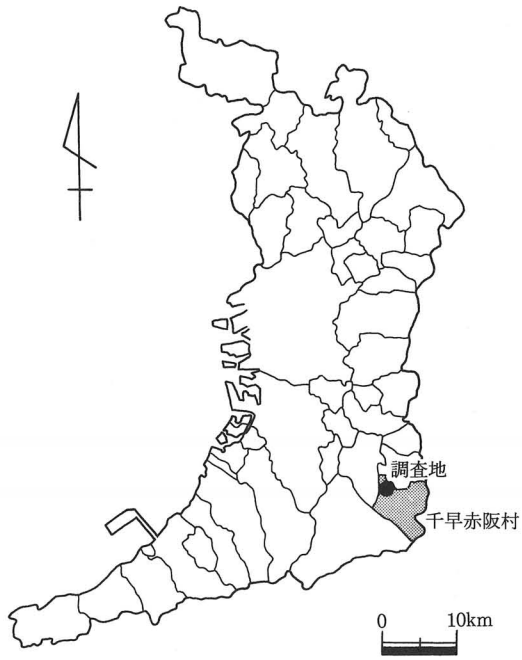
平成13年度に本村の文化施設である「くすのきホール」において公共下水道が設置されることとなった。施行予定地は埋蔵文化財包蔵地の「楠公誕生地遺跡」の範囲内であったため事前調査を行った。調査は平成13年7月9日から8月9日の期間で行った。調査面積は194㎡であるが、下水道工事に伴う調査であり調査区は細長く、且つ4箇所に分かれた。本報告書ではそのうち遺構を検出した調査区についてその概要を記す。また、平成3・4年にかけてこの「くすのきホール」建設に際して行われた発掘調査で14世紀代の建物跡を確認しているため、調査を行うにあたっては、それらの遺構群との繋がりなどを念頭に入れて調査を行った。

（2）調査地周辺の歴史的環境

千早赤阪村は大阪府の南東部に位置する。行政区では北・西・南側を河南町・富田林市・河内長野市と、東側を南北に連なる金剛山地を境に奈良県御所市・五條市と接する。その金剛山地から北へと延びる丘陵上、千早赤阪村大字水分に調査地は位置する。

本村では現在旧石器・縄文・弥生時代の生活痕跡はほとんど確認されていないものの、今回調査を行った楠公誕生地遺跡や大廻遺跡などから縄文時代後期磨消縄文の深鉢片や石器類が数点出土している。また、巨視的に周囲を見れば約2㎞北側に位置する河南町の神山遺跡からは縄文早期押型文土器・前期条痕文土器・後期磨消縄文土器などの土器片が出土している。

調査地周辺の古墳時代の遺跡は森屋古墳群・御旅所北古墳・御旅所古墳・浄心寺山古墳などがある。調査地の北西に位置する森屋古墳群は6基あったとされているが、いずれの古墳も昭和20年代に道路の設置やみかん山の開墾などにより消滅しており現在では見る影もない。しかし、中村編年Ⅱ型式1・2段階の脚付有蓋子持壺・台付壺、同3段階の子持器台などが付近から採集されている。調査地の北側に位置する御旅所北古墳・御旅所古墳は本村で発掘調査を行った唯一の古墳である。調査は昭和56・57年に行われており、御旅所北古墳からは周溝や縄掛突起をつ組合式家型石棺2基が確認されている。調査地の南西に位置する浄心寺山からはみかん山開墾時に中村編年Ⅱ型式5段階の杯蓋が採集されている。



第1図　千早赤阪村位置図

調査地周辺の史跡赤阪城跡・森屋西遺跡・御旅

所遺跡などからは飛鳥・奈良時代の遺物・遺構を確認している。史跡赤阪城跡からは丘陵の裾部を調査した際に飛鳥Ⅰ・Ⅱ、平城段階の土器が出土している。森屋西遺跡からは詳細は不明であるが、みかん山開墾時に蔵骨器と考えられる有蓋の須恵器が採集されている。調査地の北側に位置する御旅所遺跡からは奈良時代の掘立柱建物や溝が確認されている。

本村は南北朝動乱の舞台の１つとなった場所であり、多くの中世の遺跡が存在する。山城跡は昭和９年という比較的早い段階で史跡指定を受けた千早城跡・楠木城跡（上赤坂城跡）・赤阪城跡（下赤坂城跡）をはじめ、二河原辺城跡・本宮城跡・しょうぶ城跡・枡形城跡・猫路山城跡・国見山城跡など多数存在する。館跡と考えられる遺跡としては、今回調査を行った楠公誕生地遺跡や調査地の南西に位置する桐山遺跡などがある。楠公誕生地遺跡は平成３・４年にかけて「くすのきホール」建設に伴って発掘調査が行われており、14世紀の２重の堀に囲まれた建物跡を確認している。また、付近には「楠公産湯の井戸」の伝承地が残る。桐山遺跡は建武の中興以降の楠木邸跡と伝えられており、「古屋敷」・「花屋敷」・「光明院跡」などの小字名が残り、中世の瓦や土器片が採集されている。他にも調査地の北西に位置する森屋西遺跡・矢場武遺跡・曼荼羅院跡・出合遺跡、北側に位置する川野辺遺跡などの中世の遺跡がある。また、矢場武遺跡の周辺には「矢場武」・「甲取」・「城ヶ越」など城跡と関連があると考えられる小字名が残る。

これら埋蔵文化財包蔵地・伝承地などの他にも、森屋惣墓にある河南町寛弘寺神山墓地の正和四年の銘のある五輪塔とほぼ同じ時期の石造五輪塔「寄手塚」や南北朝時代のもので、反花基壇上に塔を備え、大和系の製作手法が伺える石造五輪塔「身方塚」などの石造文化財や建水分神社など多くの文化財が点在する。

【参考文献】

和泉大樹　2000　「千早赤阪村の山城　上赤坂城跡採集遺物」『摂河泉』第30号

和泉大樹　2001　「千早赤阪村の消滅した古墳」『誕生地遺跡発掘調査概要Ⅲ』

尾谷雅彦　1996　「御旅所遺跡出土の韓式系土器」『韓式系土器研究Ⅵ』

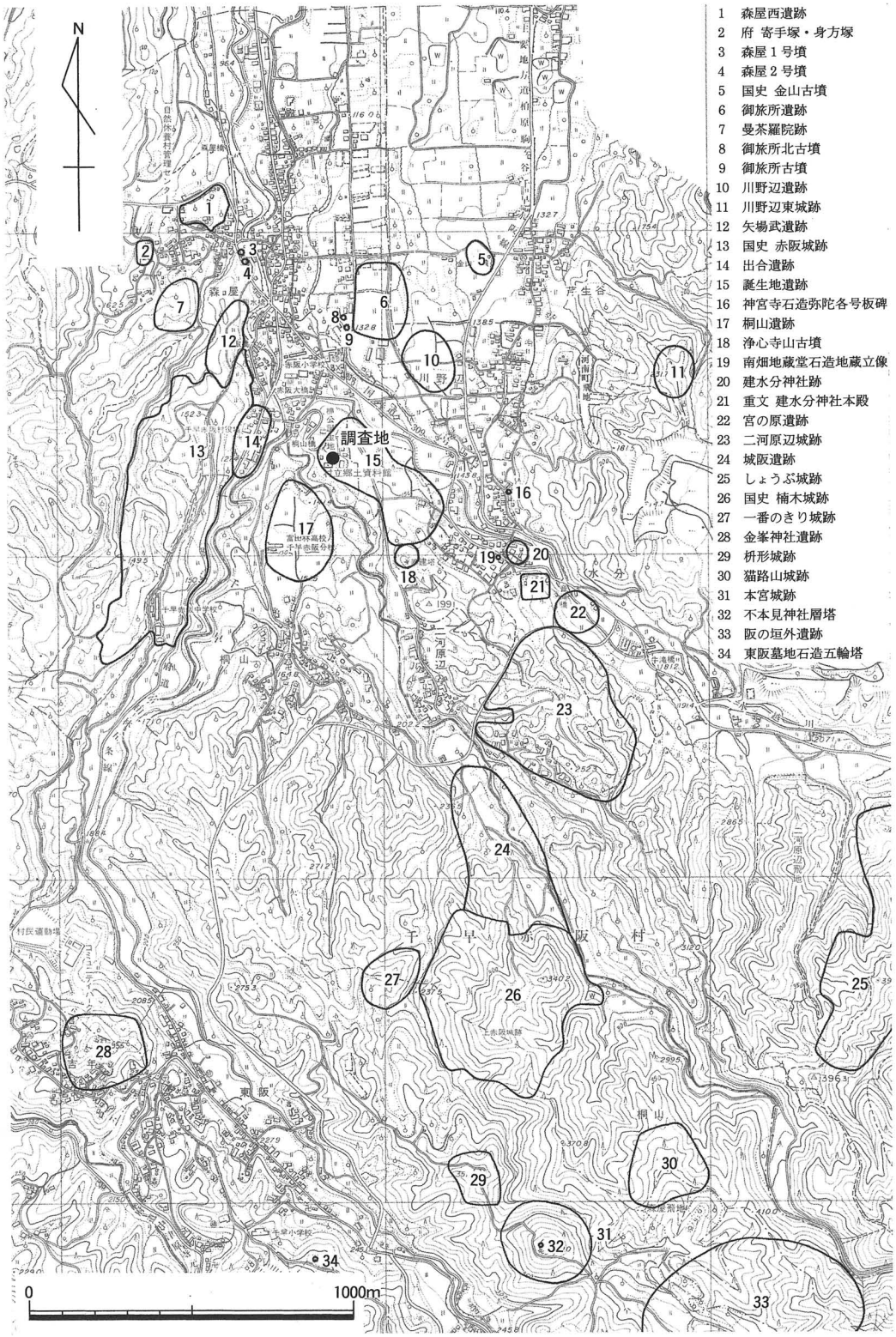
千早赤阪村教育委員会　1983　『御旅所・御旅所北古墳調査報告書』

千早赤阪村教育委員会　1995　『誕生地遺跡発掘調査概要Ⅰ』

千早赤阪村教育委員会　2000　『国史跡赤阪城跡　千早赤阪村埋蔵文化財調査報告書　第２輯』

千早赤阪村村誌編さん委員会編　1980　『千早赤阪村誌』　千早赤阪村役場

福澤邦夫　1994　『千早赤阪の石造文化財Ⅰ　千早赤阪村文化財調査報告書　第４集』
千早赤阪村教育委員会



第２図　周辺遺跡分布図（１/2,000）

2．調査成果の概要

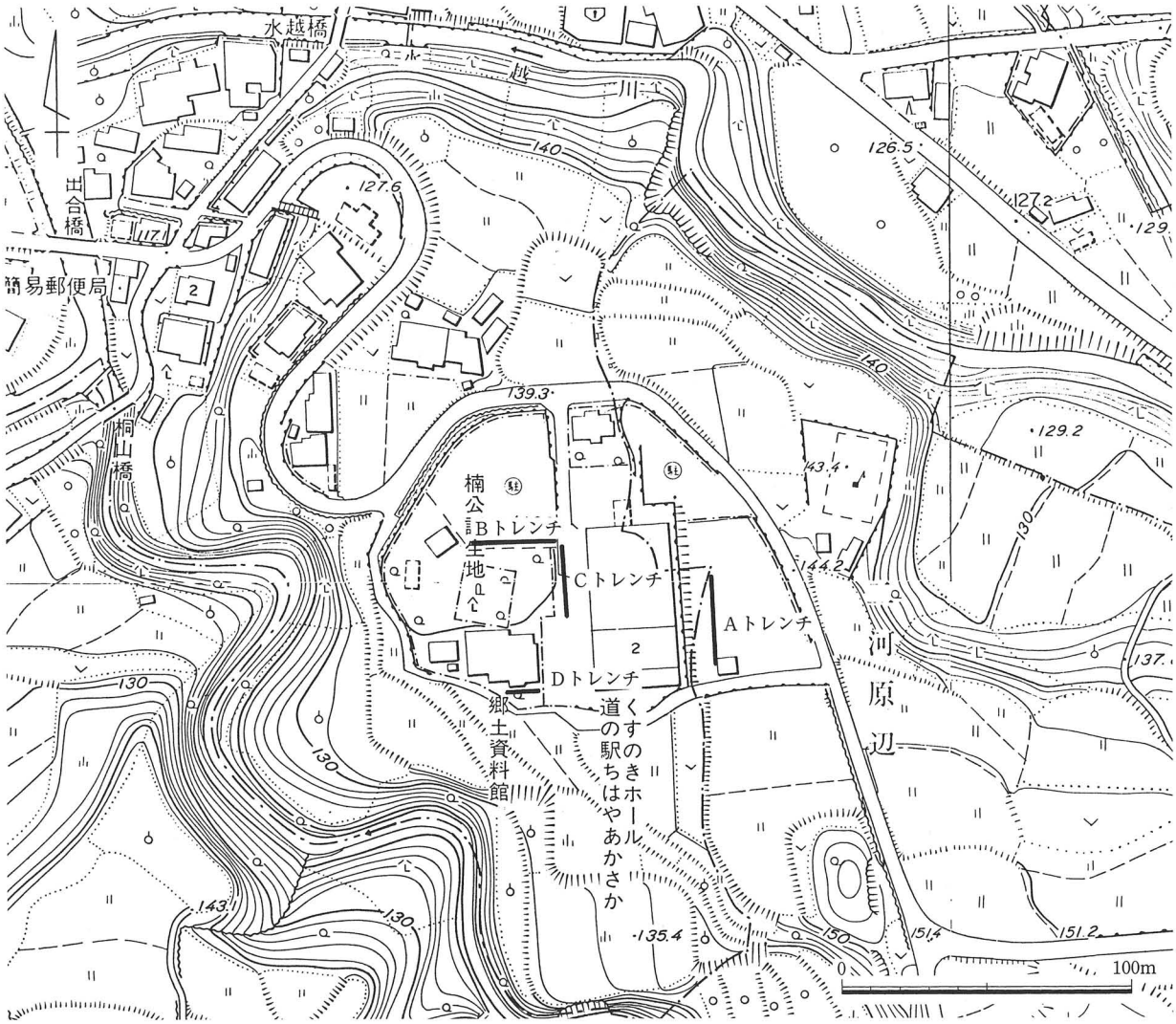
（1）はじめに

先にも記したが今回の調査においては調査トレンチが４箇所に分かれた。これらは調査着手日時の順にＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄと調査トレンチをアルファベットを用いて記号化した。本報告書ではこのうち遺構を検出したＣ・Ｄトレンチの調査成果の概要について報告する。

（2）Ｃトレンチの調査成果概要

【層序】

トレンチ南側ではアスファルトを捲ると約40cmは攪乱が、その下位で約20cmの厚みをもって中世の遺物包含層（第５図③灰色粘質土）が堆積する。それらを除去すると地表面下約50cm付近で暗灰黄色粘質土をベースとする第１遺構面が形成される。さらにその下位、地表面下約80cmの付近でにぶい黄



第３図　調査トレンチ位置図

写真１　平成３・４年度調査区全景

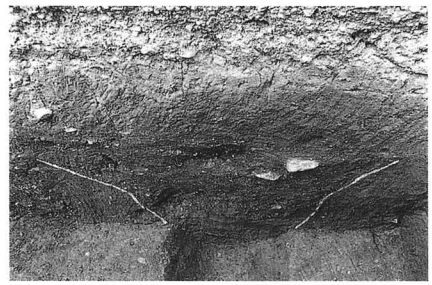
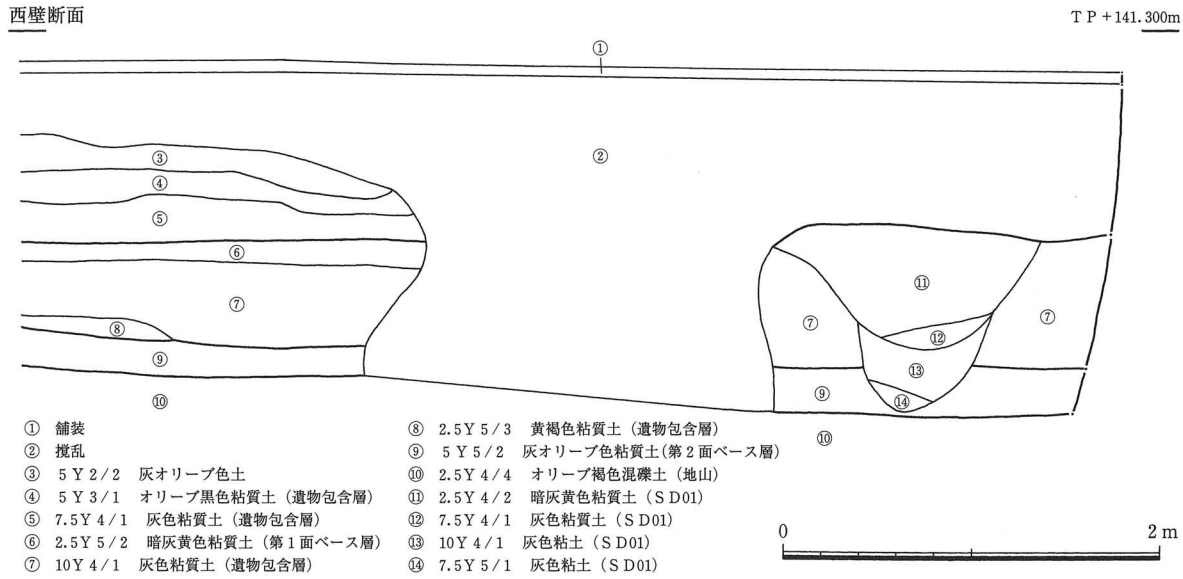


写真２　ＣトレンチＳＤ01断面

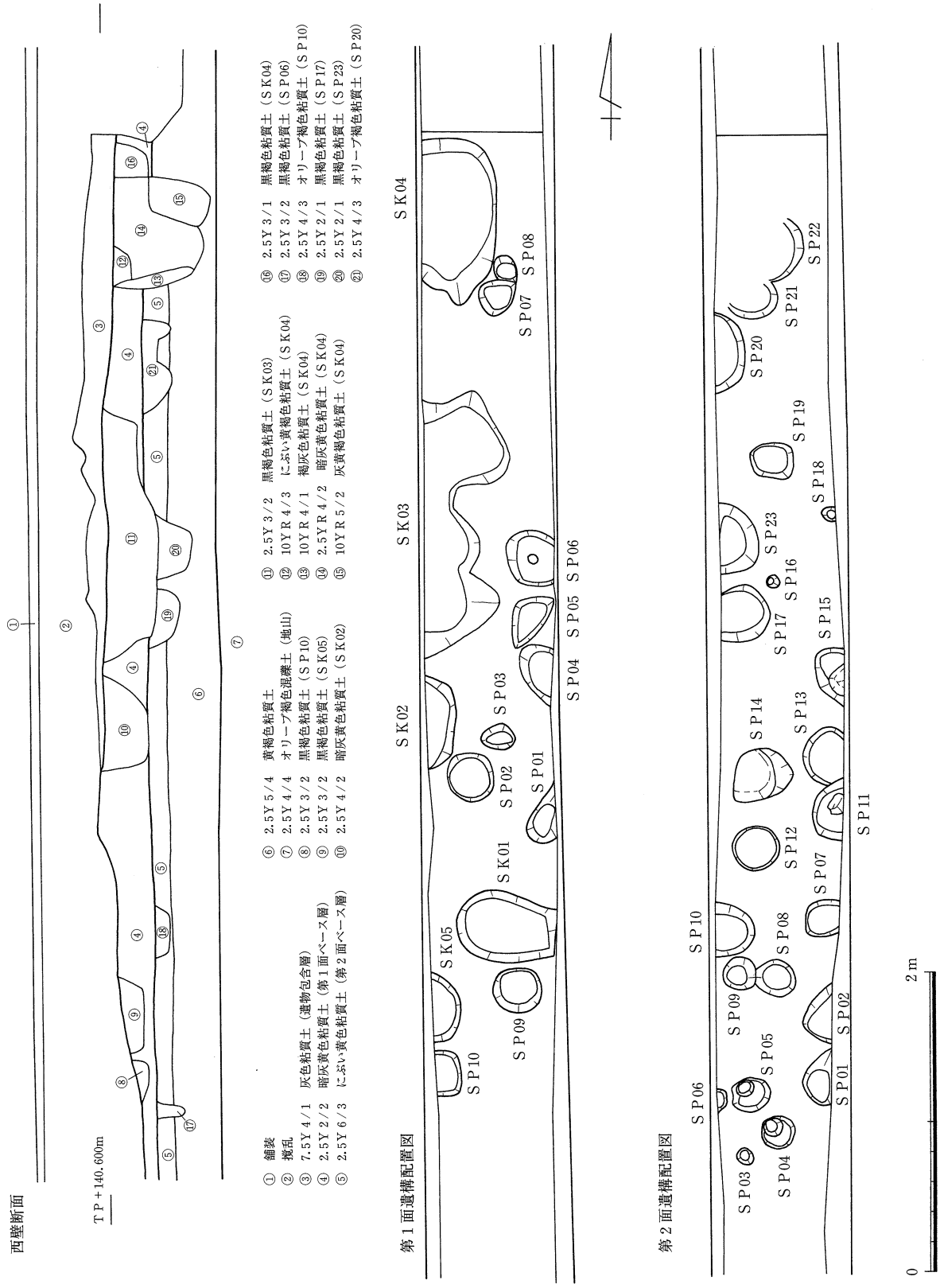


第４図　Ｃトレンチ北端断面図

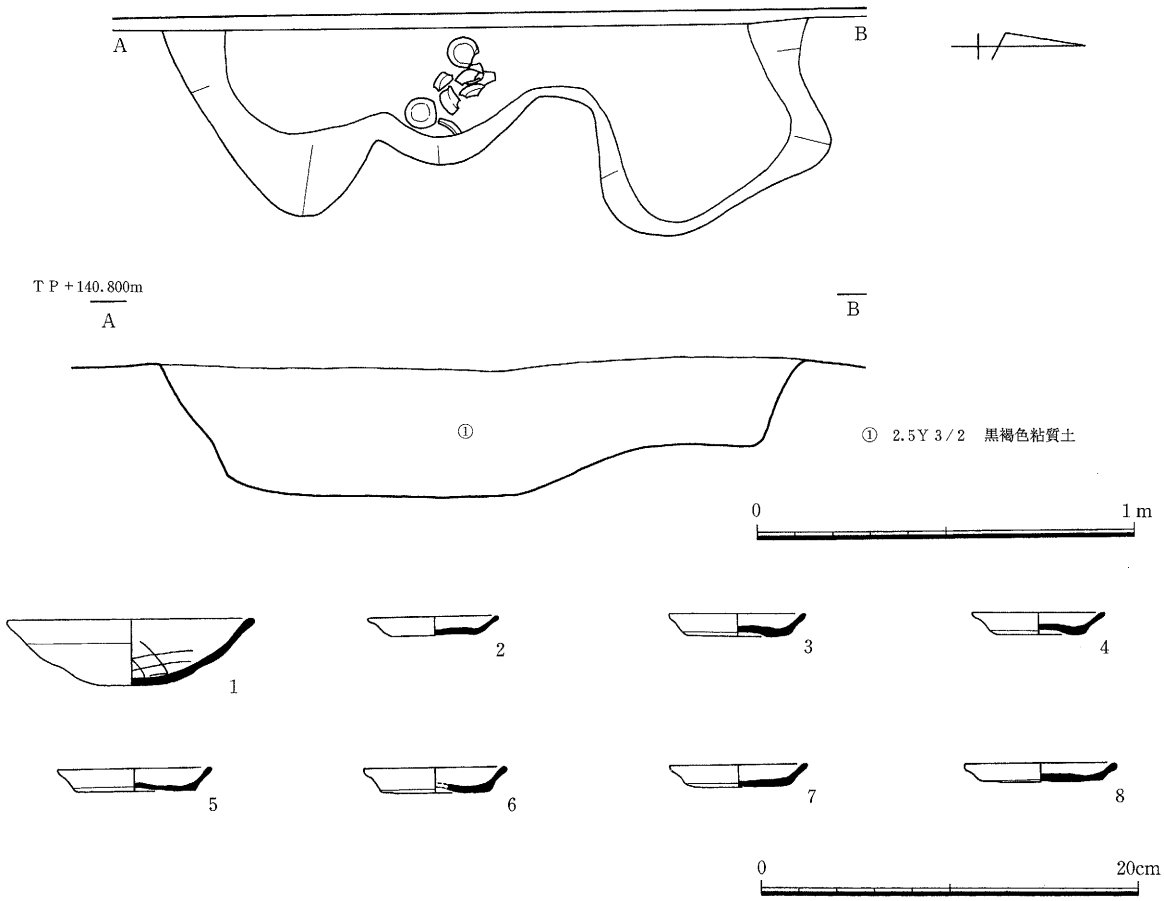
色粘質土をベースとする第２遺構面が確認できる。さらに黄褐色粘質土の堆積を間に挟み、地表面下約130cmの付近で礫が混在するオリーブ褐色混礫土（地山）が確認できる。この地山は北方向へ行くにつれてなだらかにレベルを下げる。なお、地山では遺構を検出していない。トレンチ北端では土層の堆積が増加する。アスファルト・攪乱・２層の遺物包含層（第４図④オリーブ黒色粘質土・⑤灰色粘質土）を除去すると暗灰黄色粘質土をベースとする第１遺構面が地表面下約90cmに認められる。さらに下位に２層の古代の遺物を若干含む遺物包含層（第４図⑦灰色粘質土・⑧黄褐色粘質土）を挟み、灰オリーブ色粘質土をベースとする第２遺構面が地表面下約150cmの付近で確認できる。この直下で地山が確認できる。

【検出遺構と出土遺物】

Ｃトレンチは中央部で大きく攪乱を受けており、遺構はトレンチ南側で攪乱を上手く免れて残存する。（第５図）



第5図　Cトレンチ遺構配置図・断面図



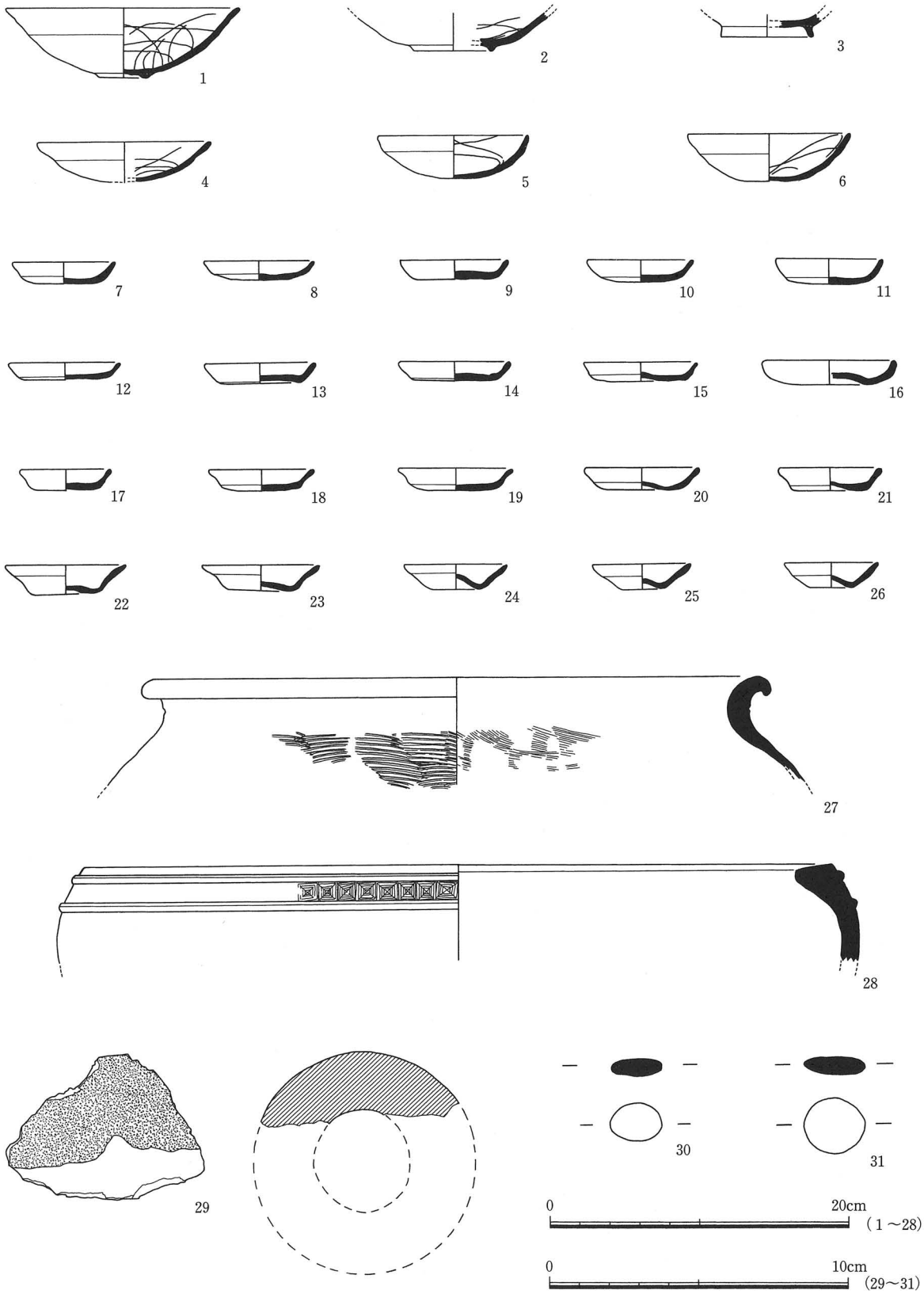
第6図　Cトレンチ SK03平面図・断面図・出土遺物実測図

第1遺構面では柱穴（SP01～10）10基、土坑（SK01～05）5基、溝（SD01）1条を検出した。このうち、トレンチ北端でSD01を確認したが、攪乱などの影響もあり平面的には検出できず断面でのみ確認した。平成3・4年度に「くすのきホール」建設に伴う発掘調査によって建物跡を取り囲むように2重に巡る溝を検出しているが（写真1）、このSD01は位置・形状・規模から考えて、このうちの内側の溝に対応すると考えられる。SP07を除くすべての遺構から瓦器片・土師器片などの遺物が出土しているが、いずれも小破片のため、時期を確定するには至らない。このうちSK03からは尾上編年Ⅳ－2段階の瓦器椀や残存状態の良い土師器皿などが出土している。（第6図）

第2遺構面では合計23基の柱穴（SP01～23）を検出した。このうち、SP02から土師器片、SP05・20から瓦器椀片、SP11・17・21・22からは土師器片・瓦器片が出土している。これらは小片であり時期は明瞭に記せない。

【包含層出土遺物】（第7図）

中世の遺物包含層である灰色粘質土層からは瓦器椀片・土師器皿片などを中心に多くの遺物が出土



第７図　Ｃトレンチ遺物包含層出土遺物実測図

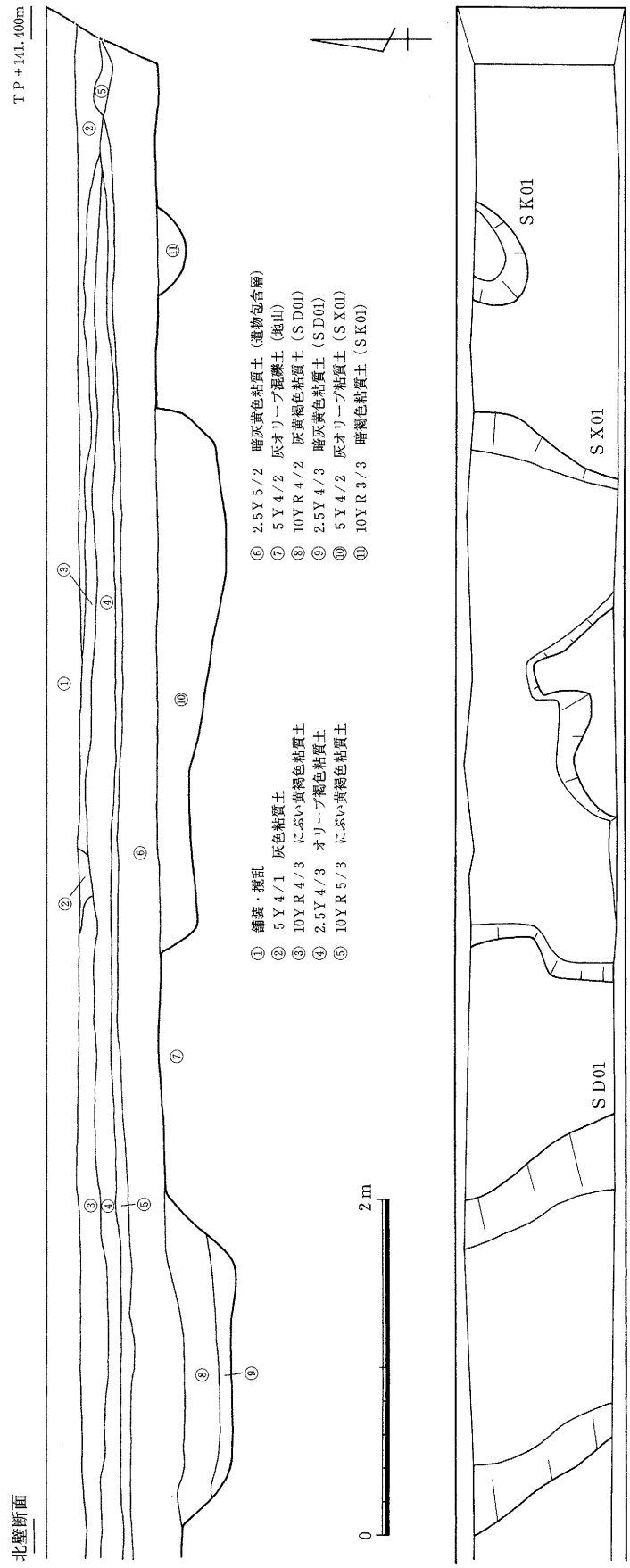
している。1～6は瓦器椀である。このうち1～3は底面に高台が貼り付く。1は口径15.5cm、器高4.6cmを測る。内面見込み部のミガキは平行線状に施される。高台断面は半円形に近い形状を呈する。諸要素より概して尾上編年Ⅲ－2・3の時期を考えたい。2は底部径5.2cmを測り、1に比して口径・器高ともに大きいことが想像できる。高台は1に比してやや鋭い。小破片であるため編年に照らし合わせることは困難であるが、1より時期が遡ることは間違いない。3は底径6cmを超える。高台高は8mmで外側へ張り出すような形状を呈する。これらのなかでは最も時期の古いものである。4～6は高台の貼り付かないタイプである。4は口径11.5cm、器高2.8cmを測る。5は口径10cm・器高2.9cmを測る。6は口径11cm、器高3.2cmを測る。各々概して、Ⅳ－2・3、Ⅳ－4、Ⅳ－3・4の時期を考えたい。

今回の調査では多くの土師器皿が出土した。これらは色調・プロポーションなどにより大きく以下の6タイプに分類できる。

A類　白色を呈するもの（15）

B類　胎土に金雲母を顕著にふくむもの（16）

C類　薄橙色もしくは橙色を呈し、丁寧にナデ調整を施し、なめらかに成形するもの（7～14）



第8図　Dトレンチ遺構配置図・断面図

Ｄ類　薄橙色もしくは橙色を呈し、外面に顕著にナデ調整を施すもの（17～19）

Ｅ類　薄橙色もしくは橙色を呈し、底部がやや上げ底となるもの（20・21）

Ｆ類　底部が上げ底となる、いわゆるヘソ皿と呼ばれているもの（22～26）

Ａ類の15は底部がやや上げ底となる。Ｂ類の16は復元口径が８cmを超える。他に比してやや大き目である。Ｃ類は最も点数が多い。Ｄ類の17は口径６cmと他に比して小さ目である。Ｅ類は胎土に大き目の石粒が混じる。Ｆ類は口径８cm代の22・23と、口径６～７cmの24～26の２者に細分できる。

瓦器椀・土師器皿以外の出土遺物は以下のようなものがある。27は瓦質の甕である。復元口径は40.４cmを測る。28は瓦質の火舎である。復元口径50cmを測る。29はフイゴの羽口である。外周径7.5cm、厚さ約２cmを測る。外面には被熱痕跡が認められる。30・31は碁石である。また、この包含層には炭や焼土、多くの壁土が混在する。

（３）Ｄトレンチの調査成果概要

【層序】

コンクリートを割り、田床土を除去すると厚さ約20cmの中世遺物包含層（第８図⑥暗灰黄色粘質土）が堆積する。その下位、地表面下約70cm付近で地山が確認できる。

【検出遺構と出土遺物】

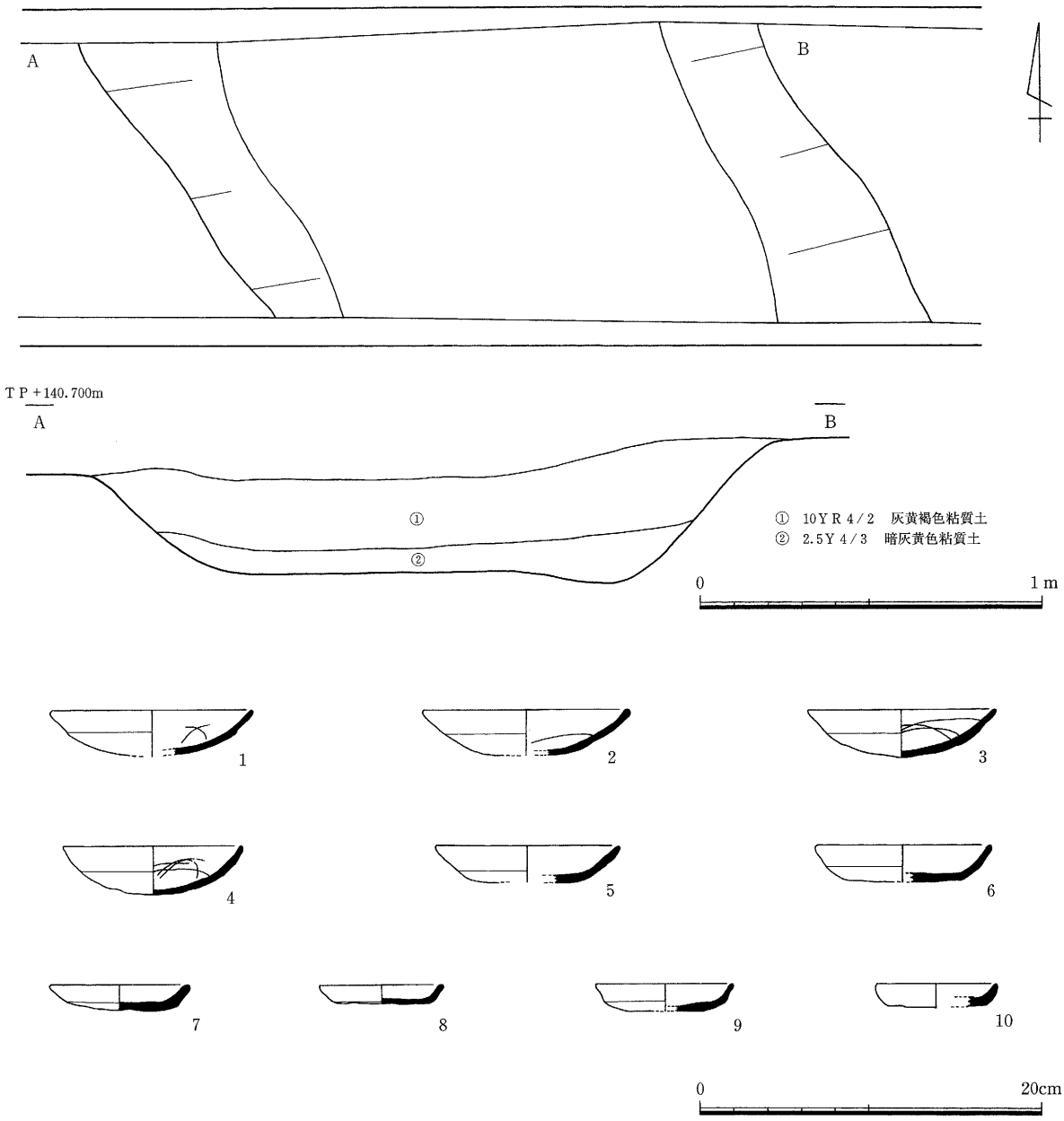
遺構は土坑（ＳＫ01）１基、不明遺構（ＳＸ01）１基、溝（ＳＤ01）１条を地山面で検出した（第８図）。これらすべての遺構から瓦器片・土師器片などが出土した。このうち、ＳＤ01から瓦器椀・土師器皿などが比較的まとまって出土した。

ＳＤ01

Ｄトレンチの西端で検出した。これより西側は攪乱となる。ＳＤ01は幅約２m、最深部で約40cmを測り、北北西の方角へ延びる。形状は逆台形を呈し、埋土は上層の灰黄色褐色粘質土と下層の暗灰黄色粘質土に分層できる。遺物は両層から瓦器椀・土師器皿などが出土した。１～４は瓦器椀である。各々、口径は11.5cm、11.8cm、11cm、10.4cmを、器高は2.7cm、2.7cm、2.8cm、2.9cmを測る。概して尾上編年Ⅳ－２～４の範囲で納まる。５～10は土師器皿であるが、５・６は復元口径10cm代の大き目のものである。

３．まとめ

以上、調査の概要について記した。下水道工事に伴う調査のため平面的な情報は得にくかったが、過去の調査で検出されている溝の連続をＣトレンチ北端で検出したり、また、尾上編年Ⅲ－２～Ⅳ－４段階の瓦器椀を包合する層からは過去の調査においては出土していないフイゴの羽口が出土するなどの成果を得た。

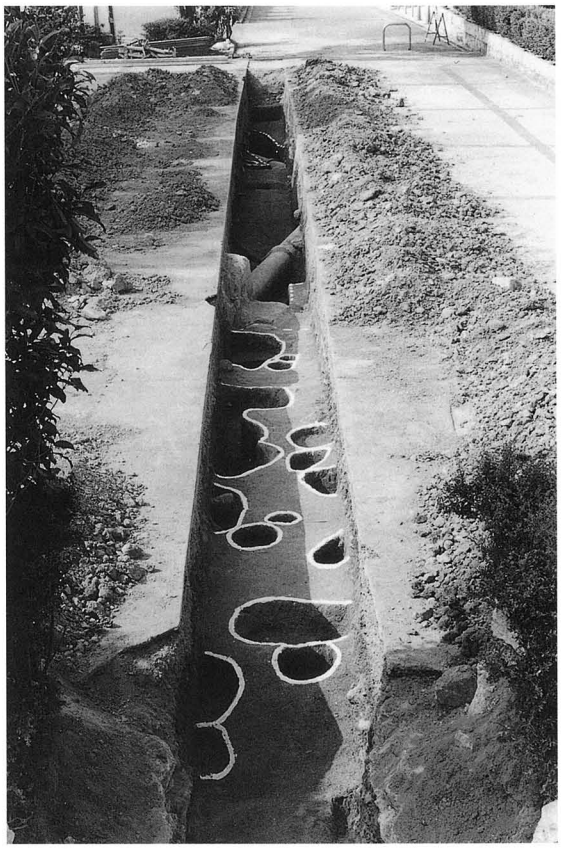


第９図　Ｄトレンチ ＳＤ01平面図・断面図・出土遺物実測図

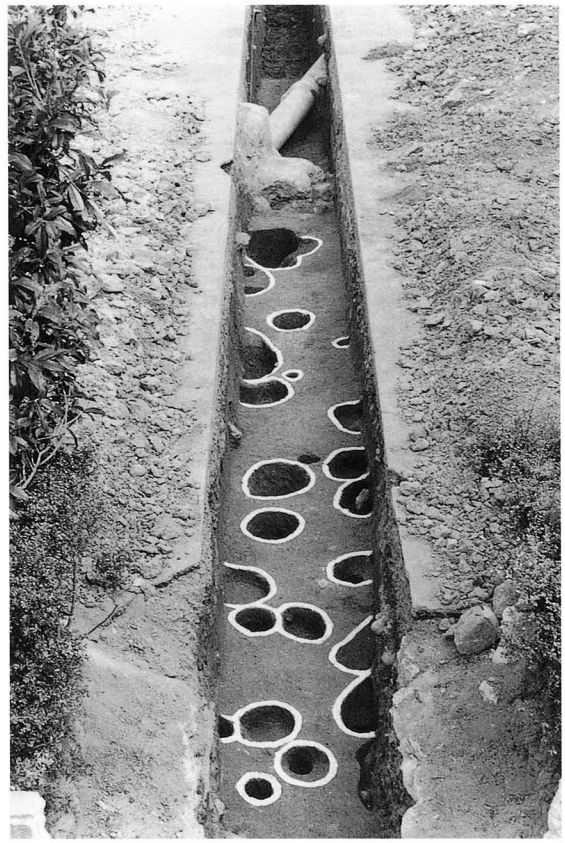
このように単独で考察すれば極めて少ない情報量であるが、蓄積を重ね、将来的に楠公誕生地遺跡の全容を明確にする手掛かりの１つとなるよう、今回の調査成果を大切に記録保存したい。

図　　版

図版１　Ｃトレンチ第１遺構面・第２遺構面・Ｄトレンチ・ＣトレンチＳＫ03遺物出土状況

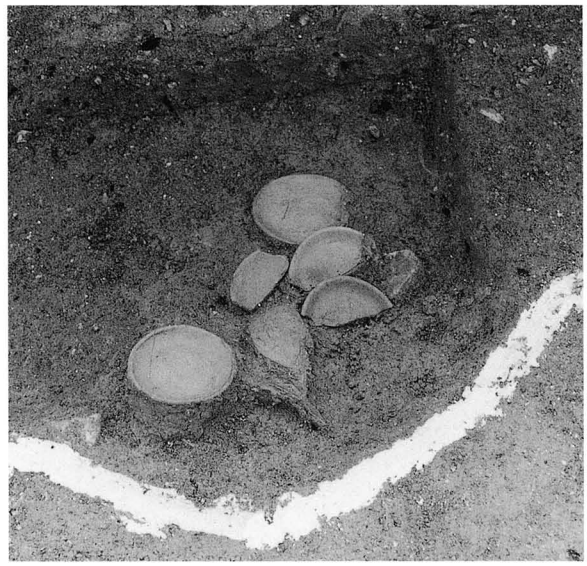


Ｃトレンチ第１遺構面



Ｃトレンチ第２遺構面

Ｄトレンチ



ＣトレンチＳＫ03遺物出土状況

図版2　Cトレンチ遺物包含層出土遺物

報　告　書　抄　録

ふりがな	たんじょうちいせきはっくつちょうさがいよう
書名	誕生地遺跡発掘調査概要
副書名	
巻次数	Ⅳ
シリーズ名	
シリーズ番号	
編集著者名	和泉大樹
編集機関	千早赤阪村教育委員会
所在地	〒585－0041　大阪府南河内郡千早赤阪村大字水分263番地
発行年月日	西暦2002年　3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
楠公誕生地 ＮＴ－01	大阪府南河内郡千早赤阪村大字水分	27383		34° 27′ 38″	135° 37′ 15″	2001.07.09 ～ 2001.08.09	194	公共下水道

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
楠公誕生地 ＮＴ－01	城館	中世	柱穴 土坑 溝	瓦器椀 土師器皿 瓦質土器 フイゴ羽口　他	

誕生地遺跡発掘調査概要Ⅳ

2002年３月31日

発　行　　千早赤阪村教育委員会

千早赤阪村大字水分２６３番地

０７２１－７２－１３００

印　刷　　（株）中島弘文堂印刷所